

授業名称：地理空間情報の共有・流通のためのデータ設計

シラバス

(地方公共団体向け)

概要：

一般的に庁内に於ける GIS 構築は、個別業務の大規模システム（対 5 大業務）として導入されている。その他一般の業務従事者にとって、GIS はプロの物、コストが掛かるもの、自分たちとは無縁の物と考えられている。これら「統合型 GIS」の導入や活用に向けた障害をどう克服するかという問題を通して、地理空間情報の共有・流通のあり方を考える。

又、後半のケーススタディでは新潟の中越沖地震の例で、住民・地方公共団体職員それぞれの立場での情報に対する対応、平常時からの情報に対する準備等を考え業務改革に対する問題認識について考察する。

学習目標：

GIS 活用に於ける情報共有・流通の重要性を理解する。

- ・庁内にある統合型 GIS の壁の認識と、それを打破する方策について実例を通して学習する。
- ・平常時・非常時の情報共有化について、中越沖地震のケース（罹災証明発行業務）を使ってグループディスカッション・演習を行う。

受講対象：

地方公共団体等において、GIS に関連する業務に従事している者、もしくは GIS に関する基礎知識は有しており、今後、専門性を高めたい意向がある者等。

- (1) 地方公共団体の情報部門の人材
- (2) 地方公共団体の情報部門以外に所属し、GIS の活用が期待される業務に従事する人材
- (3) その他、地域行政に関連する組織に所属し、GIS の活用が期待される業務に従事する人材

教育手法：

講義、ディスカッション

担当講師及び講師の必要要件：

GIS、自治体内組織、の知識が有り、ケーススタディ・グループ討議の経験有る者。

参考資料：

特になし

キーワード：

統合型 GIS、データ共有、業務改革